日当直、こんな時どないするねん～あんたの疑問こたえまっせ!!～

血算・凝固線溶

◎辻本 麻愉 [1)]
近畿大学病院 [1)]

『日当直、こんな時どないするねん～あんたの疑問こたえまっせ!!～』とワークショップタイトルにもあるように日当直における不慣れな分野の検査結果報告は不安が付きまといます。これは初心者・経験者に限らずです。初心者と経験者の違いは何でしょうか。対応できる知識や技術を持ち合わせているかどうかだと思います。

今回、ワークショップの血液検査分野では日当直時、実際に遭遇する可能性の高い「血小板数低値」について取り上げます。自動血球計数分析装置で測定したデータにおいて「血小板数低値」を見たとき、あなたならいくつ原因が思い浮かぶでしょうか。一言に「血小板数低値」と言っても程度や原因、理由は様々です。その値を報告するうえで真値なのか偽低値なのか、手技によるものなのか、疾患によるものなのか、機器測定エラーによるものなのかなどを判断し見極めていかなければなりません。そしてどのような対応を行えば、正しい結果を臨床側へ正確かつ迅速に報告する事ができるでしょうか。見落としや不安を取り除くために、必要な知識と自分なりのプロセスを身につけておけば、原因を探り、解決策を見い出すことができると思います。

血液検査分野では検体確認や標本作製、顕微鏡の取り扱い方、標本の鏡検に関しての知識や技術、疾患に関する知識などが主に必要です。今回提示するデータから何に注意して、データのどこに着眼すべきかなどを学んで頂き、実際に日当直で遭遇した時には自信をもって対応し、結果報告ができるようにしてほしいと思います。

今回、お示しする症例数は少ないですが、このような多岐分野にわたるワークショップや講習会で得た知識、技術を積み重ねて、自分の経験値を上げ、これからの現場で役立てみてください。

近畿大学病院　中央臨床検査部
072-366-0221(内線 2181)